

天地国音の詩

日と月と星雲浮かべる天空の
雷光宿るる天上の
はるかか國より響きくる

大地 大海 岩盤を
貫き通し地震の住む
深き地底より響きくる

その妙音のうれしきは
五体五感を震わせて
天神地祇なる神々降ろし
天地宇宙と交信す

笙は和音よ 鳳凰の
翼休める姿して
天上界の 音全集め
星降るごとく流れきて
慈光のごとく降り注ぐ
筆筭なるは逞しく
地上に生きるや人語の響き
大地外氣の音をも奏で

龍笛はそれ 天と地の
中宇自在に天駆ける
勇壯 霊声 龍の聲

かてて加えて琵琶 樂箏
和琴に鞆鼓 鉦鼓に鼓

左右にそびゆる大太鼓は
日月掲げ堂々と
一度打たば日天の
二度打たば月天の
大慈大悲の大音声

音の海なるこの雅楽
音の王たりこの雅楽
樂は妃なりや宮廷の
大宮人の莊嚴と
文人 文化の風雅を秘めて

何にもまして 民百姓
大地に生きる素朴さも
どしりと重き音と成し
尊き人も万民も
光る命の音と成す

雅楽生まれし謂れには
古代ペルシャやインドの古楽
唐の都に集まりて
唐樂始まり やがてには
朝も鮮やか半島へ
歌い舞われて高麗樂となり

そは たちまちに青海を
超えてはるばる列島へ
地球の果ての東洋の
東は尽きて東の
始まる宝処 瑞穂國
飛鳥の御代に着座せり
散樂 御神樂 大和歌
久米歌 東遊歌

伶樂 宴樂 次々に
古楽いつしか集まりて
ついに國風 優雅なる
日本雅樂となりしとぞ

和音の調べ 和の心
宮廷社寺に伝わりて
神仏共々人々の
心淨らに導きて
國のかたちを造りゆく

歴史の恵み 創意の妙
和魂漢才極まりて
ついに國音生まれなむ

ここに描きし陵王図
雅樂の調べに舞いゆくは
遠き奈良朝 その日より
今に続くや樂部舞人
歴代威嚴は満ち満ちて
神々しきかな 光放ちぬ

この王 古代中国北齊の
若き王君 高長恭
眉目秀麗 美男にすぎて
兵は見惚れて 士氣上がらず
案を計じて擽猛なる
面取り付けて出陣し
向かえばたちまち連勝す
燃え立つ緋色 金銀の
瑞雲水雲 唐模様
毛縁の襦袢 絲鞋を履けば
神靈直ちに降臨す

陵王ひとたび氣を吐けば
雷鳴のごと轟きて
魔陣敵陣 にわか伏せり
陵王ひとたび地を踏まば
大巖石も泥となり
陵王ひとたび跳び立たば
光陰よりもなお早く
千里万里を駆けゆきて
その身光りて虹となる

右手の撥は全軍と
森羅万象采配し治め
不退不壊なる黄金の色
左手劍印 結ぶは刀輪
行き当たることなき
宇宙の法則 無窮の慈力
五指はそれぞれ地水火
風空五元の理示し

見せ場作らず 亡國の
音も出さずに俊・豪・強
國難去れと舞いゆかむ
皇家弥栄念じつつ
世の平安を祈りつつ
遠く遙かを心に納め
ゆったり凜と 舞いゆかむ
高貴の世界を舞いゆかむ

